

第18回横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会会議録

日 時	令和4年11月25日（金）14時00分から15時30分まで
開催場所	市庁舎29階S03共用会議室（オンライン）
出席者	【委員】（リモート参加）室田部会長、大野委員、片岡委員、齋藤委員、田邊委員 【事務局】榊原部長、萩原担当課長、武智担当係長
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴0人）
議 事	1 第11回 横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門について（審議） 2 その他
決定事項	審査基準について事務局で文案を作成し、委員に確認 次回の合同部会の日程

【議事1】第11回 横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門について（審議）

（事務局）各資料を説明。

（田邊委員）第10回では、2次選考に向けて市職員が団体へのヒアリングを実施し、委員の前でプレゼンを行ったプロセスがとてもよかった。第11回でもそれを実施されることはよい。横浜・人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門では、福祉・教育・防災など様々な分野の取組から選考しているが、改めて市としての「デザイン」の定義や「まちづくり」の考えを募集にあたって伝える必要があると思う。

（部会長）確かにこれまで選考した団体の分野の幅は広く、現在の基準の書き方では、市民にわかりにくいかもしれない。まちづくりは変化しており、それに沿って募集の仕方も検討していく必要がある。

（片岡委員）本日の部会と次回の合同部会では、それぞれどの範囲まで議論するのか確認したい。

（事務局）本日は「選考のスケジュール」及び「選考の進め方」の決定を予定している。次回の合同部会では、全体に関連する部分、広報の仕方や募集リーフレットのデザインについて議論できればと考えている。ただ、本日も広報等についてもご意見いただければ、すでに開催済の横浜市都市美対策審議会表彰広報部会でいただいた意見と合わせて、合同部会で案を示したいと考えている。

（部会長）資料3について議論していくが、この議題で田邊委員の意見について意見交換を行うのはいかがでしょうか。

（田邊委員）「まちづくり」を担う都市整備局のもとでデザイン賞は実施している。地域まちづくり部門では様々な分野から推薦があるが、本表彰事業ではどのような「まちづくりのデザイン」の表彰を想定しているか。課題解決することだけでもデザインの意味を示すが、この事業ではどこまでがまちづくりにあたるのか。例えば、第10回に地域まちづくり部門を受賞した団体の中には、まちづくり景観部門の応募でもよいと思う事例もあった。他の委員及び市から意見をお聞きしたい。

（事務局）個人的な見解ではあるが、デザインとは見た目が美しいというだけでなく、コミュニティデザインという言葉もあるように、活動自体を組み立てていく事もまちづくりのデザインとして評価できると考えられる。

（部会長）デザイン賞の中で、部門ごとにすみ分けは必要だが、団体がどこを評価してほしいかによって、応募される部門が変わってくる場合もある。

（事務局）第10回では応募前にどちらの部門で応募すればよいか団体から相談があった。その際には団体として評価してもらいたい部門の視点でエントリーしてほしい旨を伝えた。その結果として団体は地域まちづくり部門に応募された。部門ごとでの切り分けは大事だと思うが、互いの部門で切り分ける判断はなかなか難しい。

（部会長）地域まちづくり推進条例上で「地域まちづくり」とは、「安全で快適な魅力あるまちを実現するために行う市街地の整備又は保全その他の地域の環境の維持又は改善の取組」とある。そこから、ハード面を意識された定義となっているがこの表彰事業も同様の認識で間違いはないか。

（事務局）間違いはない。簡単に述べると「ハード整備を伴う地域まちづくり」に都市整備局は支援していて、それを踏まえて表彰事業が実施されている。

（齋藤委員）「デザイン」の意味については検討の必要があると思う。リーフレットに記載の選考の視点

をもう少し分かりやすく表現し直してみてもどうか。まちなみ景観部門のように文章形式でもよい。

(片岡委員) 直接リーフレットの記載への指摘ではないが、第10回の1次選考で使用した「選考の視点」の詳細版の資料があったので、それを見直してもよいかもしれない。これほど細かい内容を全て基準に落とし込むことは厳しく、各項目は要綱などで定まったものではないが、選考基準を考える上で参考になる。

(事務局) 本日の部会の中で各選考基準の文案を確定することは難しいと思う。応募する側にもわかりやすい基準へ変更すべきとのご指摘としてご意見を伺いたい。基準全体の一貫性等については、事務局で検討したい。特に重要視する箇所などがあればご教示いただきたい。

## <「選考の視点」の詳細版の資料を共有>

### ①公共性

(大野委員) 選考のときに特に難しいと感じた項目。各応募内容によって様々な「公共性」があり、その中でも選考ではどんな「公共性」を重視するのか、具体的なイメージを持ちづらかった。

(事務局) 具体的な内容として、「地域の魅力を向上する」や「地域の課題解決に貢献」など、地域にとってより良い状況になるように工夫した活動を示す文言を盛り込むと分かりやすいと思う。

(片岡委員) そのような具体的な内容があった方がわかりやすい。

(大野委員) 一般の方にもそちらの方がわかりやすいと思われる。

(部会長) 選考基準の文言を修正して事務局側で案を作成してもらうのは、いかがでしょうか。現時点でそれぞれの項目で委員から意見があればさらに聞きたい。

### ②積極性

(大野委員) 「団体の発意」をもっとわかりやすい表現にできないか。

(田邊委員) 昨今の「エリアマネジメント」のブームでコミュニティのみの力で模索していたところ、資金面でサポートする企業の参入によって、一気に大きく動くまちづくり活動がある。本来地域活動は、地域の純粋な発意から、試行錯誤して継続につながっていき、持続可能な活動に成り立っていくものだと思う。この基準では、そのような活動と区別して選考できるようにしたい。

(齋藤委員) 同意。そのような地域の自発性や主体性は、基準の意味として外せないところである。

(部会長) 「積極性」の意味について、他に意見はあるか。

(齋藤委員) 「地域課題の解決を積極的に図る活動」について、「地域の課題解決」ではなく、活動の中で出た課題に対して乗り越えていく意味合いで「積極性」を評価するのではないか。

(事務局) 事務局としても、「自主性」や「主体性」という意味合いで対応していた。

(田邊委員) 「熱い思い」も評価できるとよい。

### ③地域住民等の幅広い参加や他団体との連携

(部会長) 他の団体とは連携していないが、1団体で一生懸命活動している場合もあるが、そうした団体に対する評価は必要ないか。

(齋藤委員) 多世代など各所属を超えた関係で活動されることはとても良いことだが、評価において必須である必要はないと思う。他のコミュニティとの関係はなくても、公益性がある活動は実際にある。そのような関係があればさらに良いと評価するのはどうか。地域に開かれた活動であることは大切だが、場合によっては「連携」の内容がなくてもよいと考える。

(部会長) 地域の中で率先して課題解決を行う上で、そのテーマに特化した特色を持った団体はいる。団体メンバー自体は少人数かもしれないが、否定的な評価にはならないと思う。

(田邊委員) 団体の活動が閉鎖的ではなく、様々なコミュニティと関わる機会が提供されているのであれば、「連携」は必須ではないと思う。幅広い方への提供があれば、限られた分野の団体も評価してよい。少し尖った活動の方こそ魅力がある場合もあり、地域に影響力があつたりする。

(齋藤委員) もちろん団体のみで解決できない課題や広がりを生み出せないことに、他団体と連携して相乗効果を生み、価値が高まったのであれば、それに対して高く評価することができるよう基準に残してほしい。

(片岡委員) 量よりも質を評価できたらよい。しっかり地域の人材を生かしているかなど、その地域がもつ独自性の質の方が重要ではないか。幅広い人の量ではなく、地域の特徴を生かしている度合の方が重要かもしれない。

(大野委員) 地域の独自性に関連して「横浜らしさ」を評価できたら、さらに良い。基準での定義は難し

いが評価につながられたら、さらに表彰事業が面白い取組になる。

(田邊委員) まちなみ景観部門の選考の視点に「横浜らしさの演出に寄与しているもの」とあり、地域まちづくり部門でも採用することは良いと考えるが、実際の選考で評価することは難しいと思う。

#### ④活動の独創性、⑤今後の活動の継続性・発展性

(片岡委員) 選考で悩んでいた「新しいことに挑戦した団体」と「活動を着実に継続してきた団体」に対する評価で、特に前者は新しいものを取り込むことが「横浜らしさ」を表しているのではないか。これまでのデザイン賞の評価は、全体的に総合力の高さが見られている。評価基準5つの視点での評価で総合的に評価しているが、これからの可能性がある活動団体に対して評価がしづらい。「横浜・人・まち・デザイン賞」が、「これからのまちづくり」のあるべき姿を提示するのか、これまで頑張ってきた活動へのご褒美なのか。それによって、表彰としての方向性が大きく変わるのではないか。選考するとき悩む内容である。

(事務局) 1次選考では5つの評価基準それぞれについて同じ重みづけで採点してもらおうが、2次選考では5つの評価基準を足し上げた単純な評価ではなく、委員の皆様それぞれの視点で表彰すべき団体を選んでいただき、その数が多い団体を最終選考として決定している。そのため、1つのテーマに特化した団体が選ばれる余地も残っている。確かに総合力の高さが求められる1次選考を通過しないと難しいが、現在の選考はある程度バランスの取れたやり方になっている。

(部会長) これまでの意見を踏まえて、各基準の内容を見直していただき、改めて事務局から案を共有いただきたい。

(事務局) 承知した。

(部会長) 広報の書き方やデザインについて意見はあるか。

(齋藤委員) デザインの色(青・白)はどちらも良いが、頻繁に変わるとブランドイメージが定まらないので、前回と同様が良い。また、応募方法でぜひ二次元コードを活用してほしい。今はスマートフォンやパソコンで応募する機会が多いと思われる。ハガキの有無も今後検討する必要があるが、様々な方に応募してもらうためにひとまず現行のままでよい。リーフレットでは文字を少なくして、詳細をHPで読んでもらうようにやり方を変える時期ではないか。

(事務局) 第8回、第9回のデザインでは青色を起用していたので、今回は青色に変更すると統一性が保たれると考える。今回は第10回の節目であったために白色に変更した経緯がある。

(部会長) 統一性の観点を含めて、事務局でデザインを考えてほしい。部会長のコメントはなくてもよい。それよりも、市民がより知りたいと思われる選考の考え方や表彰対象のイメージ写真を増やしてはどうか。

(大野委員) 応募したい方が悩んだときのために、問合せ先をもう少し大きく表記してはどうか。また、気軽に問合せができるような工夫をしてもよいと思う。

(事務局) 頂戴した意見を参考にしてデザインの検討を進める。

#### 【議事2】その他

(事務局) 次回の合同部会の日程調整等の相談。

以上